

竜西一貫水路

水不足と水争いをなくし、生活を支える

1969(昭和44)年に完成した総延長24kmの西天竜一貫水路とほぼ同規模の大用水。
南向発電所(中川村)の放水路から取水し、天竜峡川路、大明神原に至る。
これにより、天竜川右岸の扇状地上は、諏訪湖の下流近くから天竜峡に至るまでのほぼ全域が灌漑されることになった。
毛賀沢水路橋・胡麻目沢水路橋、田沢水路橋などがある。



毛賀沢水路橋:松尾城址公園の奥に遊歩道が整備され、水路の上は歩道になっている



田沢水路橋



胡麻目沢水路橋



田沢水路橋
胡麻目沢水路橋

毛賀沢水路橋

information

- **アクセス**
(毛賀沢水路橋)
毛賀駅から2km
徒歩→25分
- **所在地**
中川村、松川町、
高森町、飯田市



頭首工の
合口化

北原
米太郎

天竜川西岸にある竜西一貫水路は、それまで天竜川に8箇所あった頭首工を合口化し、農業経営の合理化と食料増産を目的として建設された。

座光寺の北原米太郎は、1891(明治24)年に座光寺河原の開発にあたり、20年後に座光寺村河原地区に10数町歩を開いた。

1887(明治20)年頃には竜西一貫水路の構想(「一貫水路計画通過地見取り図」)を立て、1906(明治39)年頃には小渋川合流点の下流約4km地点から飯田松川まで導水する計画を練っていた。

現在の竜西一貫水路はこの計画のルートにほぼ沿っている。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)